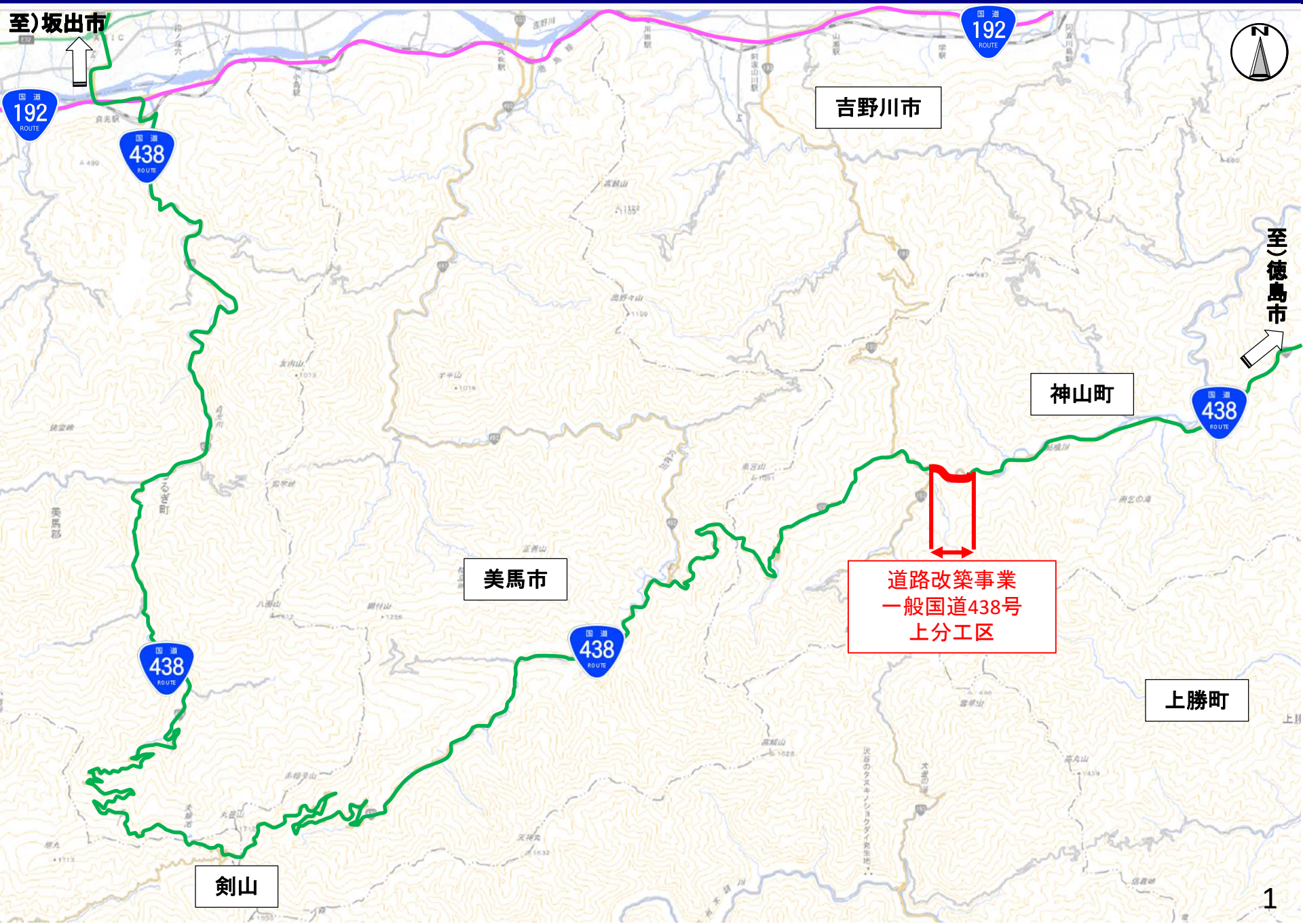


再評価【番号2】道路整備課

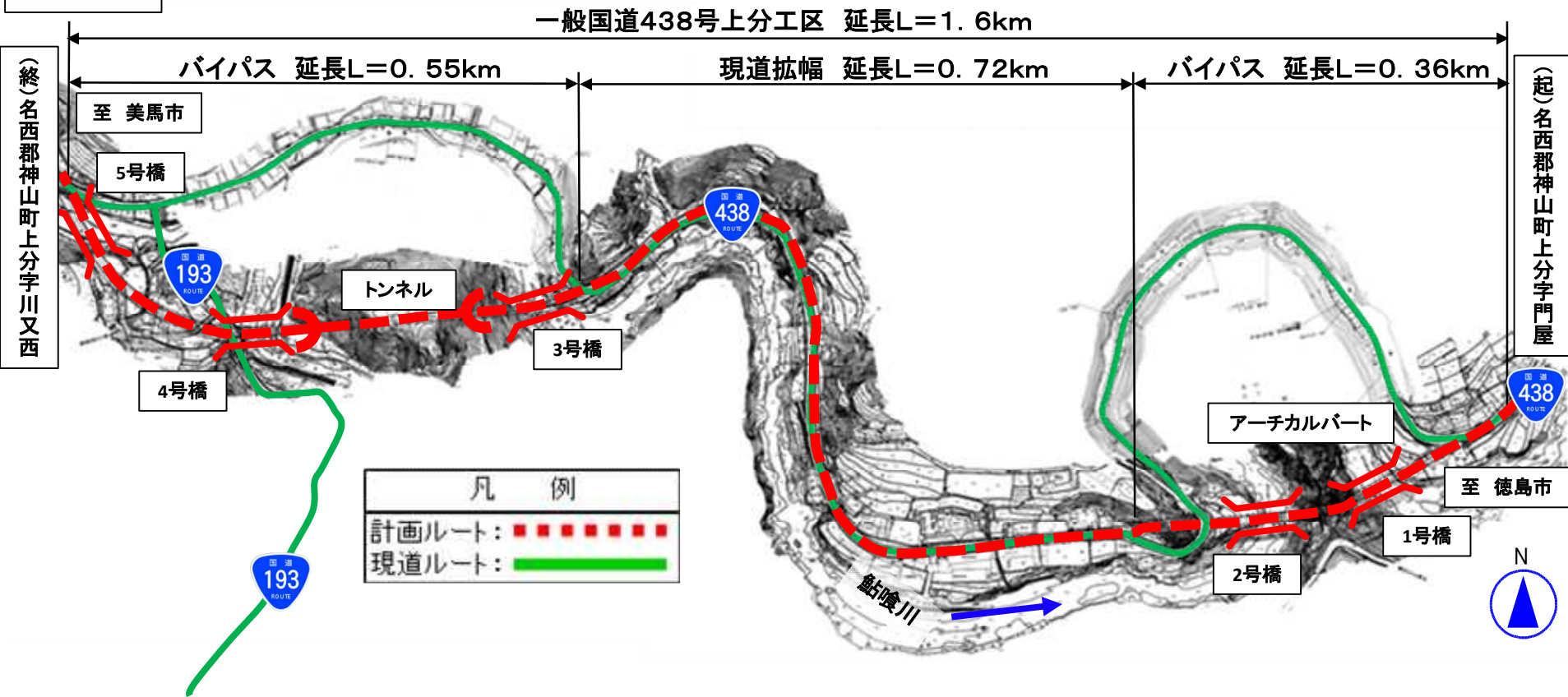
一般国道438号
上分工区

1. 事業概要



1. 事業概要

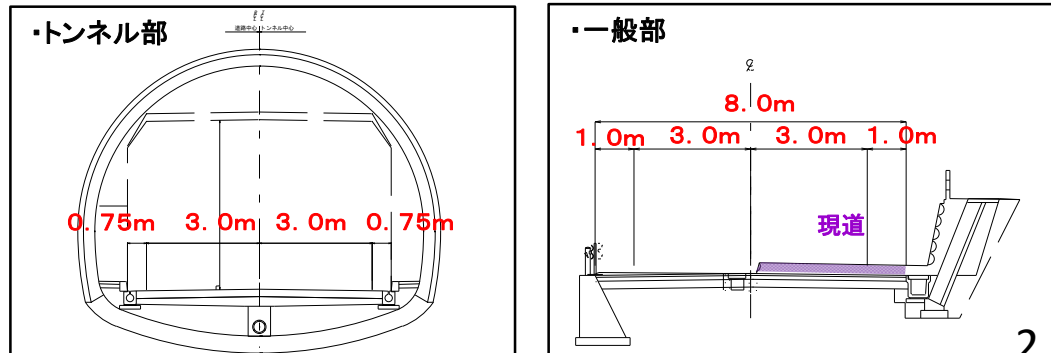
平面図



概要

延	長	1.6km
事	業	37億円 (+4億円)
道	路	第3種 第3級
設	計	40km/h
道	路	幅員 6.0 (8.0) m

標準断面図



2. 道路交通上の課題

平面図

(終) 名西郡神山町上分字川又西

至 美馬市

集 落

国道
193
route

国道
438
route

鮎喰川

アーチカルバート

(起) 名西郡神山町上分字門屋

国道
438
route

至 徳島市

N



凡 例



: 落石危険箇所



: 線形不良箇所



: 交通事故発生箇所



: 一般国道193号、438号(現道)

・連続する幅員狭小区間(最小幅員: $W=3.2m$)

・線形不良箇所(2箇所)

➡ 車両の対向が困難

・落石危険箇所(3箇所)

➡ 安全な通行に支障

・現道が人家連担区間を通過

➡ 交通事故の危険性

【道路利用者の声】

カーブが多く、幅員が狭いため、不慣れな他地区からの車が内回りしてくるなど、大変危険を感じる。

(50歳代男性)



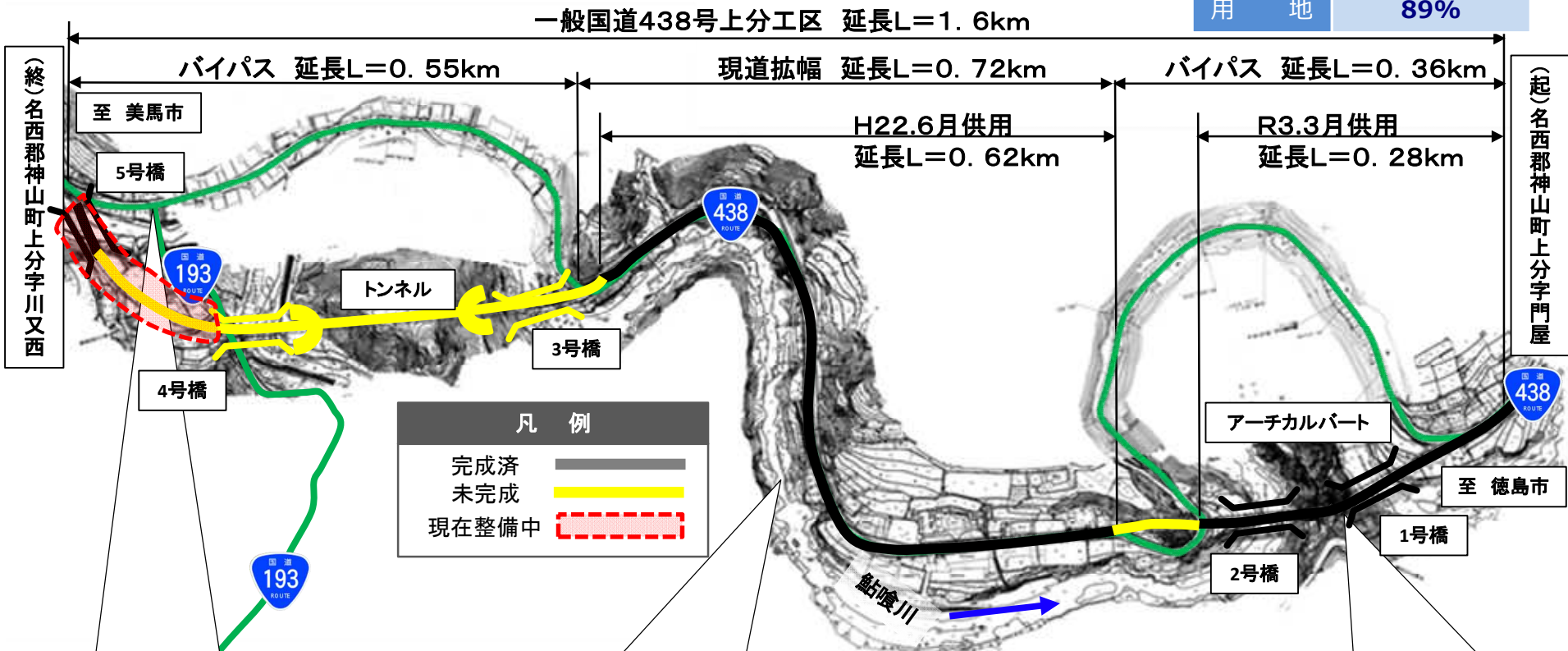
車両対向状況(現道)



事故発生箇所付近の状況(集落)3

3. 事業の進捗状況

進捗率	
事業費	77%
用地	89%



一般国道193号との交差点部



現道拡幅区間(H22.6月供用)

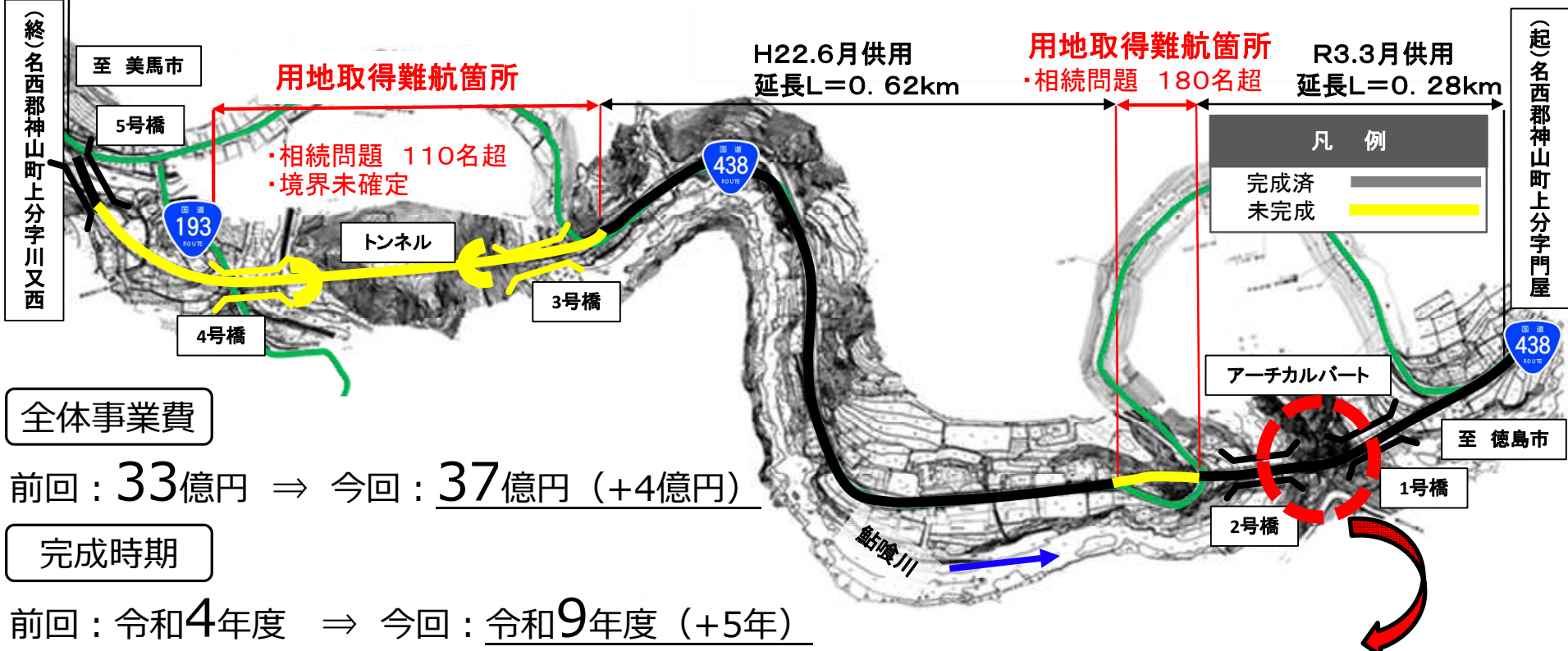


バイパス区間(R3.3月供用)

4. 前回評価時からの変更点

平面図

一般国道438号上分工区 延長L=1.6km



全体事業費

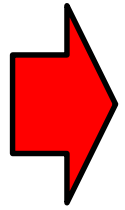
前回 : 33億円 ⇒ 今回 : 37億円 (+4億円)

完成時期

前回 : 令和4年度 ⇒ 今回 : 令和9年度 (+5年)

掘削した岩が脆弱であり対策工が必要

対策前



吹きつけ工などの対策工を実施

対策後

5. 事業評価結果

貨幣価値換算可能な整備効果

①従来の3便益

- ・走行時間短縮便益
- ・走行経費減少便益
- ・交通事故減少便益

計 **42.8** 億円
(現在価値化後)

②その他の便益

- ・環境負荷低減便益 : 0.1 億円
- ・救急救命率向上便益 : 8.4 億円

計 **8.5** 億円
(現在価値化後)

費用

- ・事業費
- ・維持管理費

計 **49.1** 億円
(現在価値化後)

その他便益を含む **B / C = 1.1**

貨幣価値に表れない整備効果

防災・減災

- 緊急輸送道路ネットワークの強化
幅員狭小・線形不良の解消
落石危険箇所の回避

➡ **緊急物資の輸送等が円滑化**

- 災害拠点、避難場所へのアクセス強化
工区周辺のヘリコプター離着陸地や
避難場所等へのアクセス性向上

➡ **地域防災力の向上**

安全・安心

- 安全安心の確保
人家連担・事故発生箇所を迂回

➡ **地域住民の安全性の向上**

- 地域住民の救命率向上
アクセス性向上により救命率向上

➡ **地域住民の安心感の向上**

産業振興

- 利便性の向上
物流の効率化 観光地へのアクセスの向上
移住者数のさらなる増加

➡ **地域経済の活性化**

6. 道路整備による多様な効果【防災・減災】

【防災・減災】災害に強い道路ネットワークの構築

①緊急輸送道路ネットワークの強化

- ・幅員狭小の解消 (W=約3.0m → 8.0m)
- ・線形不良の解消 (2箇所 → 0箇所)
➡ 走行性の向上により、物資輸送等が円滑に
- ・落石危険箇所の解消 (3箇所 → 0箇所)
➡ 安全性の向上により、確実な走行が可能に

②災害拠点、避難所へのアクセス強化

- ・工区周辺のヘリコプター離着陸地へのアクセス性が向上
➡ 地域防災力の向上により、災害への確実な備えに



門屋1号橋(令和3年3月供用)



6. 道路整備による多様な効果【安全・安心、産業振興】

【安全・安心】地域内の安全な通行の確保

①安全安心の確保

- ・人家連たん区間内を通過している幅員狭小な現道を迂回
- ・事故発生箇所を迂回（H19.9月に発生）

➡車両及び、歩行者の安全を確保



現道の通過交通がバイパスに転換し、歩行者の安全を確保

歩行者通行状況

【産業振興】地域経済の活性化

①物流の効率化

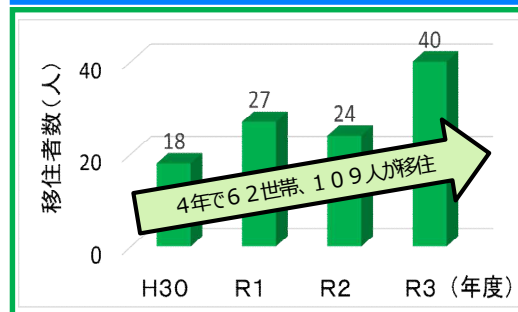
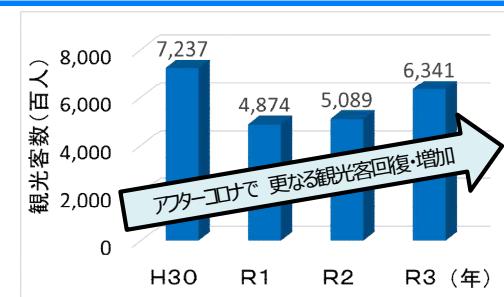
- ・中央卸売市場までの搬送時間が短縮

➡農作物等の輸送の効率化

②地域経済の活性化

- ・観光地のアクセスの向上
- ・交流人口・移住者数の更なる増加

➡観光産業の活性化



7. 今後の対応方針（案）

貨幣価値換算可能な整備効果

①従来の3便益

- ・走行時間短縮便益
- ・走行経費減少便益
- ・交通事故減少便益

計 **42.8** 億円
(現在価値化後)

②その他の便益

- ・環境負荷低減便益 : 0.1 億円
- ・救急救命率向上便益 : 8.4 億円

計 **8.5** 億円
(現在価値化後)

費用

- ・事業費
- ・維持管理費

計 **49.1** 億円
(現在価値化後)

その他便益を含む **B / C = 1.1**

貨幣価値に表れない整備効果

防災・減災

- 緊急輸送道路ネットワークの強化
幅員狭小・線形不良の解消
落石危険箇所の回避

➡ 緊急物資の輸送等が円滑化

- 災害拠点、避難場所へのアクセス強化
工区周辺のヘリコプター離着陸地や
避難場所等へのアクセス性向上

➡ 地域防災力の向上

安全・安心

- 安全安心の確保
家屋密集地・事故発生箇所を迂回

➡ 地域住民の安全性の向上

- 地域住民の救命率向上
アクセス性向上により救命率向上

➡ 地域住民の安心感の向上

産業振興

- 利便性の向上
物流の効率化 観光地へのアクセスの向上
移住者数のさらなる増加

➡ 地域経済の活性化

■ 今後の対応方針（案）

事業継続